

第168回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成23年5月12日(木) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル会議室

3 委員の出席 委員総数 7人  
出席委員数 7人

(1) 出席委員の氏名 早川 富美子(委員長)  
片山 貴之(副委員長)  
青木 敬信  
片岡 真理  
古磯 勝子  
島田 恭子  
森内 律子

(2) 放送事業者側出席者 佐藤 望(放送部部长)  
古寺 雄史(放送部主任)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換  
(2) その他  
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

4月10日・17日に放送した「東日本大震災復興支援番組 長渕剛 Run For Tomorrow ~明日に向かって~」について、試聴と意見交換を行った。

事業者 3月11日に発生した東日本大震災後、著名人が復興に向けて様々な支援活動をおこなっています。アーティストである長渕剛さんも、被災地に向けてラジオ番組を届けることで、復興を支援したいとの思いから、この番組がスタートしました。

この番組はネット局が増えて、現在16局で放送されています。長渕さんの被災地へのひたむきな想いに共感するリスナーが増え、毎週全国から500通を超えるメールが届くほど、大きな反響を呼んでいる番組です。

## 【 番 組 の 試 聴 】

委員：長渕さん自身が純粋に何かしたいという想いが、ひしひしと伝わってきた。  
試聴しながら、純粋に感動、共感し、涙があふれ出てきた。

委員：男気のある長渕さんが本音で語る姿勢が、とてもよかった。  
番組で流れた長渕さんの楽曲からも、その音楽と歌詞から、感じるものがあり、  
ファンでない人、被災地以外の人々も、共感できる内容になっていると感じた。

委員：カリスマのあるアーティストの長渕さんが、ひとつひとつ言葉を選びながら、  
語りかけていたことに心を打たれた。  
復興に勇気を与えるため、今後もこういった番組を放送してほしい。

委員：様々なメディアで復興支援を訴える中、このタイプのものはラジオならではのものである。  
また、被災した人に寄り添うような想いも感じられ、番組を聴いた被災者も、  
この放送で、きっと励まされただろうと思った。

委員：番組冒頭で朗読した詞で語られた「憎い」・「狂っている」など、ネガティブな気持ちを  
増幅する言葉と、自然の恩恵を認めつつも、攻撃的に感じる表現に違和感を感じた。

事業者：今回は、長渕さんが被災地に行く前の放送回を試聴した。  
その後、長渕さん自身が被災地に行き、被災者の生の声を聴いたり、  
自衛隊員に歌を届けたりすることで、長渕さんも、この番組で何をどう伝えていくべき  
か悟ったようで、最近の放送回では、番組のトーンも試聴した回とは若干違いはある。

委員：商業ベースではないこの番組をボランティアとして、いち早く編成し、放送をした  
FM栃木に対しても、評価をしたい。

事業者：放送局のネットを超えて、特別番組枠で編成している。この番組でも、ラジオと  
インターネットを組み合わせ、さらに多くの人が番組を聴けるようなスタイルを  
とっている。ラジオ番組の新しいアプローチとして効果があるのではと考える。

(以上)

(2) その他  
なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を6月9日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 5月29日(日)午後9時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし